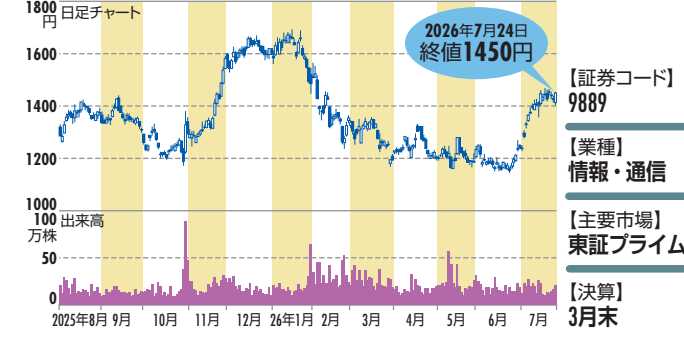


株 価 と 業 績

今期は増収・2ケタ増益へ
営業利益率は11%予想



事業構造変革を推し進め、今期は売上高が前期比4.6%増、営業利益が同19.7%増予想。収益性の向上を目指し、営業利益率は目標の11%を見込む。

業績(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)
	24.3	65,194	4,422	4,549	3,187	50.86
	25.3	69,868	6,155	6,314	4,603	74.19
	26.3	76,019	7,308	7,469	5,353	86.34
会社予想	27.3	79,500	8,745	8,845	6,045	99.63

※25年4月1日付の株式分割の影響を考慮している。
※通期予想は26年7月24日時点のもの。

参考指標	予想PER	PBR	予想ROE	予想売上高 経常利益率	成長度 予想売上高 伸び率
会社予想ベース	7/24現在	14.6倍	3.54倍	24.3%	11.1%

ンサムウェアをはじめとするサイバー攻撃の深刻化とともに、それらを防御するセキュリティ製品のニーズは高まっている。同社はただ製品を販売するだけでなく、定期的な診断と、攻撃を受けた際に速やかに復旧させるサービスも提供している。これらのストックビジネスを拡大させることで、継続的な売上高の伸びが見込めるのだ。また、「超高速開発」とは、文字どおりシステム開発を超高速で行うサービスである。同社は、

難度が高く、他のSierでは手に負えない基幹システムを超高速で開発する独自手法「JBアジャイル」を確立。プロジェクトが早く完了するだけでなく、開発における手戻りがほとんどないため、通常の開発案件に比べて利益率が非常に高い。「クラウド」「セキュリティ」事業によるストック収入の拡大と、「超高速開発」事業による収益性の向上で、成長カーブが上向き続けるビジネスモデルを追求している。

将来性は？
AIの普及は商機
顧客の変革に伴走し
成長のギアを上げる

同社は、将来に向け成長カーブをさらに鋭角化するため、顧客のビジネス発展に欠かせないAI変革を力強く支援する方針を掲げている。具体的には、まず自社がAIを使って社内業務プロセスや働き方を再設計し、その知見をもとに顧客のAI活用を支援。さらに、社内および顧客の活用事例を蓄積し、それらをベースとするAIプラットフォーム（業務遂行のための基盤）を構築、顧客が自分たち自身でAI変革を推進できる体制づくりを伴走支援していく。

この伴走支援を新たなストックビジネスとして追加し、成長のギアをさらに上げる戦略だ。同社の売上高に占めるストックビジネスの比率は26年3月期時点で50%を超えているが、今後さらに高め、売上高と利益が伸び続ける仕組みをより強固にする考えだ。顧客のAI変革への支援体制を強化するため、AIスタートアップへの投資なども積極的に行っていく。

IR Report

証券コード: 9889

JBCCホールディングス

中堅・中小企業のDXをトータルに支援
収益基盤を着実に広げ
AIで成長を加速する

的に提供するシステムインテグレータ（Sier）としてのビジネスモデルを確立した。特に、東上征司代表取締役社長が就任した12年以降、事業の選択と集中を大胆に行い、「売上高が一時的に下がっても成長の基盤を築き上げる」という経営判断を下したことが、26年3月期まで5期連続最高益という現在の好業績につながっている。大企業向けにITインフラから、システム、アプリケーションまでをトータルに提供するSierは一般的だが、同社のように中堅・中小企業向けに提供しているSierは極めて珍しく、独自性の高さが競争力の源泉の1つとなっている。

JBCCホールディングスは、数あるITソリューションの中でも「クラウド」「セキュリティ」「超高速開発」の3つを注力事業分野としている。いずれも今後の成長を加速させる効果が期待される事業ばかりだ。まず、システムやデータベ

オフィスコンピュータの開発・製造・販売を行う会社として、1964年に設立。高度経済成長期から、産業の情報化を支える会社として60年以上の歴史を歩んできた。83年に日本IBMと資本・業務提携し、同社製品の販売代理店となるが、2006年に提携を解消。以後、製品や販売先の見直しなどの事業構造変革を重ね、中堅・中小企業（売上高規模500億〜2000億円）向けにITソリューションを総合的に提供する。

3つの注力事業で
ストック収入を拡大
安定収益基盤を確立



お客さまのAI変革を伴走支援する「AI Native Company」へ

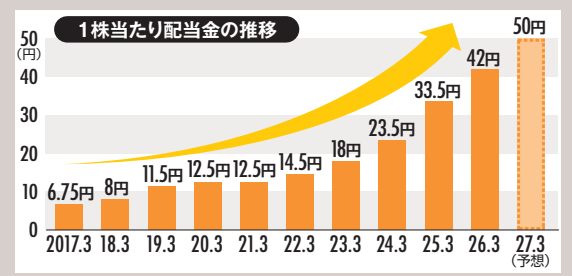
JBCCホールディングス 代表取締役社長 東上征司（ひがしうえ・せいじ）

当社が目指すのは、テクノロジーの力でお客さまの変革を支え、その実現・成果創出に伴走し続けることです。AIが驚異的なスピードで進化し、企業経営に不可欠な存在となる中、まず私たち自身が変わる必要があると考え、全社で「AI Native Company」への変貌を推し進めています。お客さまとの接点から経営分析まで、一連の業務プロセスをAIで再設定し、自らが最初の顧客「クライアントゼロ」として得た知見をお客さまへの価値提供につなげていきます。今後も中堅・中小企業のDX支援で培った強みで収益力を高め、成長投資と株主還元を両立を図りつつ持続的に成長し、投資家の皆さまのご期待に応えてまいります。

配当方針

配当性向45%以上
6期連続増配を計画

健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を両立しながら持続的に成長していく方針を掲げている。現在進行中の中期経営計画では配当性向45%以上を目標としているが、今期は50%を超える見通し。6期連続増配となる年間50円を予定している。



※25年4月1日付の株式分割の影響を考慮している。
※今期予想は26年7月24日時点のもの。

業績から見る事業構造変革

将来を見据え事業構造変革を推進
収益性改善に注力、5期連続最高益を達成

12年に東上社長が就任して以降、販売する製品・サービスや販売先の大胆な見直しを何度も実施。売上高500億〜2000億円規模の中堅・中小企業に「クラウド」「セキュリティ」「超高速開発」を中心としたITソリューションをトータルに提供する現在のビジネスモデルを確立した。その結果、26年3月期まで5期連続最高益と好調な業績に。

